

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム蔵 発寒(きさらぎ)	評価実施年月日	平成22年2月18日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年2月20日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域密着型を意識して、スタッフで考えて作りあげたものがある。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>職員研修を通して理解を深め、朝の申し送り時に、スタッフで理念を唱和している。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>理念を見える所に掲示したり、地域に向けて公開日を設けたりしている。また、理念をパンフレットに入れている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩、ゴミ投げなどの際、町内の方とお互いに声をかけあっている。時には、近所の方から庭の花をいただいたり、家庭菜園で取れた野菜を持ってきてくれる。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>老人クラブ、すこやかクラブ、女性部、町内文化祭、小学校の学習発表会に参加している。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域みに向けて公開日を設けた。参加は少なかったが、入居に結びついた方がいた。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	過去の評価を生かして、出来る事からしている。スタッフの入れ替わりもあるので、その都度伝えている。例えば、記録に記載者のサインを残す、おこずかい帳を確認した事を家族から認め印をもらう、同業者のGHのスタッフで訪ね、交流を深めた。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議に避難訓練を重ね、町内会長、地域包括センター職員にも参加してもらった。	○	スタッフの参加があってもよいのでは、という意見があり、検討していき
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	定期的に役所に空き情報を報告し、運営推進会議を開催したり、札幌市、北海道のグループホーム協議会に入会し、包括との連携、働きかけを行っている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	今年度は対象者がいなかったが、個々の必要性は認識している。	○	計画をたてたが、実施できなかった。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがない要注意を払い、防止に努めている。	主任会議で毎月一回、身体拘束委員会を設けている。カンファレンスの時、スタッフとも不適切なケアなどについての話し合いをしている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項の説明や入居前の面談などの際、特に料金、将来の重度化、看取りについて、丁寧に説明している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議には、必ず利用者代表に出席してもらっている。日常は職員も話しやすい雰囲気を作り心がけている。</p>	○	<p>必ずしも利用者が出席するのだろうか？という意見もある。堅苦しい雰囲気、何を話しているのかわからないということで、これから検討していきたい。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>家族には、毎月利用者ごとのおこずかい帳を送って、家族が来たときに確認の認め印をもらったり、随時、電話による連絡、家族通信を送付している。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議には、必ず家族の代表に出席してもらい、意見、情報の交換をしたり、年に数回家族会を開き、吸い上げた事を主任会議で話し合い、反映させている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>年に数回の懇親会を通してや、スタッフ研修のうちに意見の交換をしている。また、自己評価をしている時に意見を聞く。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>行事や入浴など必要に応じて、日勤者の数を調整したり、困難なケースの場合、夜勤者のサブをつけた。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>最小限のダメージで済むように配慮して、2つのユニット内での異動を実施した。それにより、利用者が不穏になることはない。また、新しい職員が入ったら、利用者を紹介している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部研修の参加を促したり、内部研修も年に数回行っている。三年以上の実績のあるものには、管理者、実践者研修にも会社負担で参加してもらい、スキルアップを図っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>西区のグループホームにスタッフが、見学に行き、情報交換をした。また、西区管理者会議の企画した勉強会、合同食事会にも参加した。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>年に数回の懇親会を設けたり、分煙に向けて検討した結果、適切な場所がなく、休憩室に空気清浄機置き、環境を整えた。</p>	<p>○ 休憩室の環境には、まだ問題が多く、更なる分煙または全面禁煙に向けて、最重要課題として取り組んでいく。また、冬期間の雪かき作業についても検討の余地がある。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>有資格者に手当を支給している。資格取得者がいたら、お祝いの会を予定している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前には必ず、本人との面談を行い不安やニーズを聞き取っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前には必ず、本人との面談とは別に、家族との面談をし、これまでの状況を、センター方式で把握している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援  相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容に応じて、医療的な対応、マッサージや福土用具の紹介などしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	日帰りでレクに参加してもらったり、一泊の体験入居をしてもらったり、職員、既存の利用者、新しい利用者お互いに馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日常的に個別あるいは複数で外出の機会を持ち、出来る事を中心にお手伝いしてもらい中で、料理の味付けを聞いたり、昔話を聞いたりしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	何かあればその都度、家族に近況を知らせ情報交換したり、毎月家族通信を送って個人または、事業所全体の情報を知らせている。	○	家族通信を送るだけでなく、家族からの返信をもらうようにしたらどうか？という意見があり、今後形式を含め検討していく予定。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の行事への参加を呼びかけたり、本人が家族との電話を望んでいる時は、かけて支援している。	○	面会を望まない家族もいるが、悪い所ばかりでなく、以前より変わった面を家族に伝えるようにして、面会を働きかけたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔住んでいた場所にドライブに行ったり、許される限りの面会を受け入れ支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	体操、レクには、出来るだけ全員に参加をうながしている。出来る人には、お手伝いをうまく分担してお願いしている。利用者同士がぶつからないように、関係をよりよく保てるよう関わっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所した利用者でも入院治療中であれば、お見舞いに行く。退所した家族から、お難様をもらった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃からコミュニケーションを取り、よく話を聞くようにしている。時には、個別に対話する事もある。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前には、必ず本人、または家族と面談を行い、センター方式などで生育歴やサービスの利用状況を把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ケアプランに乗取って支援し、毎月一度、生活の見直しカンファレンスや、個別カンファレンスを行って把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	主に、スタッフによる介護計画の見直しをしている。時には、主治医の意見も取り入れる。	○	家族を交えてのカンファレンスを実施するのは、なかなか難しいので、カ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々、ケアプランに乗っ取って実施しているが、月に二度の総合、個別カンファレンスの度、計画を見直している。緊急性のある場合は、カンファレンスまで待たず内容を見直している。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録は個人記録と業務記録とに分け、個人記録は時系列に記録している。また、別欄にケアプラン実行の様子も記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	空き部屋というのがなく、急な用事が出来た時のための、ショートステイなどには対応出来ない。人力的な問題もある。	○	スペース的にも、人力的にも難しい問題である。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員には、運営推進会議に出席してもらい、町内の保育園児が訪ねてくれて、交流会をしたり、避難訓練の時は消防署に協力してもらっている。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の希望に怖じて、訪問理美容、訪問歯科、おむつサービスを受けられるよう支援している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括センターには、運営推進会議に出席してもらい、地域包括センターの役割について、説明してもらったり、必要に応じて情報交換をしている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>二週間に一度、訪問診療をしてもらい、家族との連携により、必要があれば入院機関などを、訪問診療の医師と相談している。また、家族に代わり、通院介助もしている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>まずは、訪問診療の医師に相談し、情報や専門的な知識を取り入れる体制にある。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>常勤の看護師がいるので、日常的に相談出来、夜間にも対応しているので、状況に即した対応が出来る。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には、情報を提供し、必要な物品を届けて、見舞ったり、家族、本人の思いを尊重し、早期退院にむけた話し合いをしている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>本人の変化に注意しながら、対象がいれば、本人、家族の思いを尊重し、かかりつけの医師と連携を保ちながら、職員一同思いを一つにして、方針を決定している。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>本人、家族との話し合いにより決まった、重度化や終末期の方針に基づいて、職員一同、医療機関との連携の基、チームケアとして支援に取り組む体制がある。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居室へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	介護添書や薬情報など提供し、フェイスシートなども情報として交換している。また、居室には、以前から使っていたなじみの物品を置くなどしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	職員間では、勉強会や研修時に個人情報保護法の理解を深め、個人情報は外にもれないよう努めている。また、トイレ誘導など周りに気づかれないよう、プライバシーに気を遣っている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個人の誕生日には食べたいメニューや、欲しいプレゼントを聞いたり、普段では、お茶の時間に飲みたい物を選んでもらっている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限るそうしている。居室での読書が好きな方、仏壇に供える花を希望されれば、一緒に買いに行ったりしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	訪問美容に来てもらって、本人の希望に合わせてパーマカットを行っている。お化粧、マニキュアなどのする「おしゃれの日」というのを設けている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節、行事に合わせた食事にしたり、おはぎ、餅つきを一緒に丸めたり、後かたづけをしてもらい、それが生き甲斐となっている方もいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	クリスマス会に、希望者にはノンアルコールビールを出したり、月一回の老人クラブに行った時には、少々のビールを飲んだりしている。また、希望者には買い物時に好みのおやつを買ってくる。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	時間ごとにトイレの声かけをしたり、一人一人に合わせたパットを用意している。排泄後は、清拭だけでなく入浴してもらう事もある。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日までは希望どおりに出来ないが、一番風呂が好きな方、同性介助を望む方には、希望に添うようにしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中は、出来るだけ外出、散歩、お手伝いなど、身体を動かす事をしてもらい、夜間には良眠出来るようにしている。不眠を訴える時には、話を聞いたり、温かい飲み物を提供している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の得意な分野で、日々の気晴らしをしてもらっている。縫い物や習字など。台所仕事が好きな方には、分担して行ってもらっている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	おこずかいは、事務所で管理しているが、本人の希望、力に合わせて、日用品の買い物などはレジでお金を出してもらっている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には、無理じいしない程度に、気分転換、こもりきりにならないよう、散歩、遠足、ウィンドウショッピングに出かけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別あるいは、複数で花見、果物狩り、デパートの催事場、バイキングなどに出かけている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状を送ったり、遠方の家族からの電話を取り次いだり、希望者には、家族への電話をかける支援をしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	時間を制限せず、いつでも訪問した家族と過ごしてもらったり、家族との外出も特に制限は設けていない。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフには常日頃から、身体拘束について知識を解いている。車いすの利用者はいないが、就寝時もベッド柵で囲まないようにしている。また、不適切なケアにも注意している。	○	きちんとした職員研修の場を設けたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	家庭の概念を大事にして、夜間のみ施錠している。日中はドアが開くとセンサーで音が鳴るようにしている。外出を察知した時は、無理に引き留めず、一緒に出たり、さりげなく声をかけるようにしている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	出来る限り、自由に過ごしてもらえよう、監視している感じにならないよう見守り、安全確認している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	仏壇に線香を供える習慣のある利用者の場合、ライターはスタッフが管理し、本来の生活習慣をくずさない工夫をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット、事故報告を生かし、転倒、窒息、薬に関しては、スタッフ研修で知識を身につけ、一人一人の状況に応じた対応をしている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	日頃より、緊急対応マニュアルを備え、いざと言うとき、職員全員が対応出来るように、また、職員研修で緊急対応研修を行った。	○	年一回だけでなく、ユニット毎に何回かに分けて実地訓練を行って行く。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災や地震に備え、消防署の協力のもと、町内会の住人、家族と一緒に避難訓練を行った。	○	いざという時の避難場所をあらかじめ家族にお知らせしておく、屋根のある避難場所を確認しておく
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	転倒、痙攣などの予測されるリスクについては、日頃より家族、スタッフ間でよく話しあい、リスクをさげられるよう対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日、血圧、体温測定し、普段の様子と違う時は速やかに対応している。また、その情報をスタッフ間で共有し、看護師に報告して指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情報は、薬局から出されている物を、一冊のファイルにまとめ、いつでも職員が見ることが出来るようにしてある。薬の種類、休薬、追加など時は、業務日誌に記入して、職員だれもがわかるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘の原因、影響については、勉強会を通して知識を深め、個々の状況に応じて豆乳、果物、野菜などを摂取してもらえるよう心がけ、運動する事もうながしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアをしている。仕上げはスタッフがしている。義歯は週に三回ほど洗浄液に浸している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	地域の栄養士に専門的に献立をみてもらい、助言を受け参考にしている。職員は利用者の食事の摂取量や水分量を把握した上で、バランスの良い献立作りをしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルは用意されている。毎年、職員、利用者はインフルエンザのワクチンを摂取している。今年は利用者のみ新型ワクチンも摂取した。スタッフ間では、ノロウイルスに対しての知識をもって対応する体制がある。手洗い、うがいは日常的に習慣となっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具、布巾のこまめな漂白、週に一度冷蔵庫の整理、掃除を行っている。週一回食材の買い物に行き、新鮮な食材を提供するよう心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	日中は玄関の施錠はせず、自由に出入り出来るようにしてある。夏場は庭にベンチ、プランターを置き、気軽に親しみやすい雰囲気を心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には季節の花を飾ったり、食堂の壁には時期ごとに飾りを工夫している。浴室などは自然の採光で季節、時間が感じられるようにしている。清潔保持にも心かけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	外の景色が見られる談話室があり、夏場は、庭のベンチで日向ぼっこなどができるようにしている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いたれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具や家族の写真を飾ったり、希望に応じてテレビを持ち込んでもらったり、仏壇をおいている方もいる。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	夏場の暑さ対策には、クーラーを使って温度調整を行い、冬場は乾燥防止のため、暖房の上にぬれタオルを置いたり、水の入った容器をおいている。また、掃除の際には、窓を開けて換気に気をつけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	浴室、廊下、トイレには手すりがついている。夜間は足元ライトをつけるようにしている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	特にトイレは、場所がわかるように大きく表示を掲げ、各居室には利用者の写真や名前を貼りだし、混乱のないよう工夫してある。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物のすぐ裏に畑を作り、野菜の収穫を楽しむ事が出来る。また、夏場は建物の横で、焼き肉や流しソーメンをして、季節を感じられるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎日ある</li> <li>②数日に1回程度ある</li> <li>③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族</li> <li>②家族の2/3くらい</li> <li>③家族の1/3くらい</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ毎日のように</li> <li>②数日に1回程度</li> <li>③たまに</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>



V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①大いに増えている</li> <li>②少しずつ増えている</li> <li>③あまり増えていない</li> <li>④全くいない</li> </ul>
98	職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての職員が</li> <li>②職員の2/3くらいが</li> <li>③職員の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者が</li> <li>②利用者の2/3くらいが</li> <li>③利用者の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての家族等が</li> <li>②家族等の2/3くらいが</li> <li>③家族等の1/3くらいが</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)